

福原京の遺跡と遺物

平安時代の末期に平家一門の別邸が点在し、また治承^{じしやう}4年（1180）に京より都が遷された現在の神戸市兵庫区の北部地域周辺では、平家の時代の遺跡がいくつか発掘されています。そのなかから主な遺跡と発掘された遺物を簡単に紹介します。（写真はいずれも神戸市教育委員会提供）

祇園遺跡

兵庫区上祇園町近辺に広がる遺跡で、かつての福原の中心にあたります。主に国道428号線に沿った東側部分の発掘調査が行われており、これまでに庭園の池と導水路・排水路、石垣などが確認されています。しかし、調査地が狭いために、全体像は明らかになっていません。

この遺跡からは、宴会で使い捨てにされたと思われる土師器の^{はじき}小皿が^{かわらけ}多量に見つかっています。また、丸^{まる}鞆^{ともし}（官人のベルト飾り）や中国製の陶磁器類や京都産の瓦が出土しています。中でも、中国製の^{あまひ}玳瑁天目小碗（べつ甲に似た釉薬を使った焼き物）は、日本ではほとんど出土例のない大変貴重な遺物です。

残された文献の記述からは、近隣に清盛邸があったと考えられ、この遺跡は清盛に近い有力者の邸宅の一部かあるいは清盛邸の一部であるとも考えられます。



庭園の遺構



玳瑁天目小碗



京都産軒瓦

楠・荒田町遺跡

権中納言平頼盛の邸宅があった兵庫区荒田町近辺に広がる遺跡で、神戸大学医学部附属病院構内（中央区楠町7丁目）は、この遺跡の中心部にあたると考えられます。

病院構内からは、東西方向の2重の壕の遺構が見つかっており、これまで39メートルが確認されていましたが、平成22年の調査で総延長が約65メートル以上におよぶことがわかりました。壕は、土地を区画する地割りや防御の役割を果たしていたものと考えられ、同時に出土した京都産の土師器皿の年代から、福原に都があったころのものとされています。



壕の遺構

雪御所遺跡

兵庫区雪御所町近辺に広がる遺跡で、明治時代までこの地に雪之御所という小字があったことから、『平家物語』に記されている清盛が建てた雪見の御所があった地とされています。明治41年、湊山小学校校舎改築の際に、校庭から多量の土器や瓦とともに建物の礎石が見つかり、小学校敷地内に雪見御所旧跡の碑が立てられました。

<参考文献>

神戸市文書館発行 『福原遷都ー清盛の海の都ー』（2005年）

高橋昌明著 『平清盛 福原の夢』（2007年）

神戸市教育委員会発行 平成22年度夏季企画展「中世の港湾都市神戸」リーフレット
(2010年)